

○本時の目標（対象：1年球技）

- ・バックドアプレイを通して、チームと個人の課題を具体的に指摘することができる。

【思考・判断】

【学習指導要領の内容】

- ①次に運動について勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。
- ②球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- ③技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するために取り組み方を工夫できるようにする。

評価規準に盛り込むべき事項（入学年次）		評価方法
思考・判断	生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組みを工夫している。	・学習活動への取り組み姿勢 (グループワーク)
<ul style="list-style-type: none"> ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ・作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けている。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 ・球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。 		

使用物品

iPad・iPhone・ホワイトボード・パソコン・ドラム・テレビ・プロジェクターetc

※（専属の接続コードが必要）

使用アプリ

キーノート・ストップウォッチタイマー・オフィスワード・メモ

- ・アプリは無料である
- ・一度作成すれば、iCloud などを利用して、様々な環境で使用できる。
- ・授業準備も慣れてしまえば問題はない。
- ・教材作成の幅・アイデア・授業体型がとつもなく広がる。
- ・グループ学習、アクティブラーニングが有効的に実施できる。
- ・リモート機能を使用することで、生徒全員に目を配ることができ、4観点別評価を実践できる。

学 習 指 導 案

北海道弟子屈高等学校

教科「科目」	保健体育「体育」		授業者	阿波克典
日 時	平成27年11月9日(月曜日)3校時		場所	体育館
使用教科書			実施学級	
領域・単元名	球技・バスケットボール		1年 組・計 名	
配当時間	単元配当時間12時間(本時 1時間目)		(男子 名・女子 名)	
本時の目標	・バックドアプレイを通して、チームと個人の課題を具体的に指摘することができる。 【思考・判断】			
段階	学習内容・学習活動	教師の指導・手立て		評価の観点・方法他
導入 5分	(プリントに目を通す) ・号令、出欠 ・本時の目標の確認 ・目をつぶり、落ちたコインの種類を当てる ・感想を述べる	・体育館入口にプリントを準備する。 ・体調、服装等の観察、学習環境等安全の確認 ・本時の目標の明示(ホワイトボードまたはテレビ画面) 「バックドアプレイを通して、チームと個人の課題を具体的に指摘する」 ・各種のコインを床に落とし、音を聞き分けさせる。その後問題を出す→音は重要な情報であり、声の大切さを意識づける。また、気づきを強調する。		・授業はキーノートスライドで説明
展開 35分	1 アイスブレイク・球慣れ ①ノーマル ②メディシン・テニスボールトレーニング ③リレー	・準備運動(領域と関連付ける) ・声を掛け合うこと。協力することを意識させる ・苦手な生徒に対して、「キャッチの時に、ボールの正面に入ること」を意識付けさせる。巡回時に声をかけ、必要に応じて手本を示す。		
	2 バス練習 <u>バックドアプレイ</u> ①フラフープ 空間把握能力を鍛える ②ノーマル 実現性 ③ハーフコート ディフェンスをつけて	・実例を発表する。(動画) 目標とする運動の技能 ①ボールウォッチャーを減らす。→スペースを見る視野と声かけ、フロアバランスをイメージする。 ②ドリブルしている人以外が動く。→ボールを持たない人がスペースを作る。 以上の習得のために、 <u>バックドアプレイ</u> が有効である。		・【思考・判断】 ○行動観察
	・グループの取組を発表する (学習ノート作成)	○キーノートリモートを使用し、iPhone持参で巡回 ○iPhone内の評価ソフトにより、巡回中の評価が可能 ○大修館発売予定の「見比べレッスン」の使用も検討中		○発表
まとめ 10分	・ローテゲーム ・クールダウン ・学習ノート作成 ・グループ会議 ・本時の反省の発表 ・号令、片付け	・ICT(スポーツミラー遅延上映)の活用により、自己や仲間の動きを客観的に示す。 ・ストレッチ ・学習ノート記入中は巡回し、必要に応じて助言する。 ・本時の目標に戻り、まとめる。 ・次時の予告と、終了の指示を行う。		・【思考・判断】 ○行動観察 ○学習ノート *自己評価を含む

評価基準

A 仲間との連携により、空間への侵入などの攻防を展開する時の、チームの課題を考察し、具体的に指摘することができる

B フロアバランスを意識して、自らの動きの課題を指摘することができる

C 空間を作り出すことや埋めることを十分に把握することができず、自己や仲間の動きについて考察することができない

学習カード

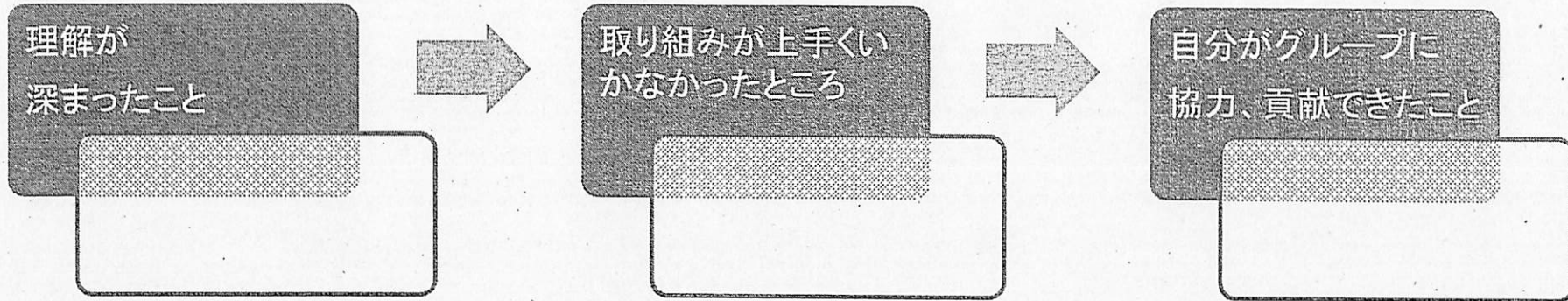
年 組 番
氏名

○ 自己評価表

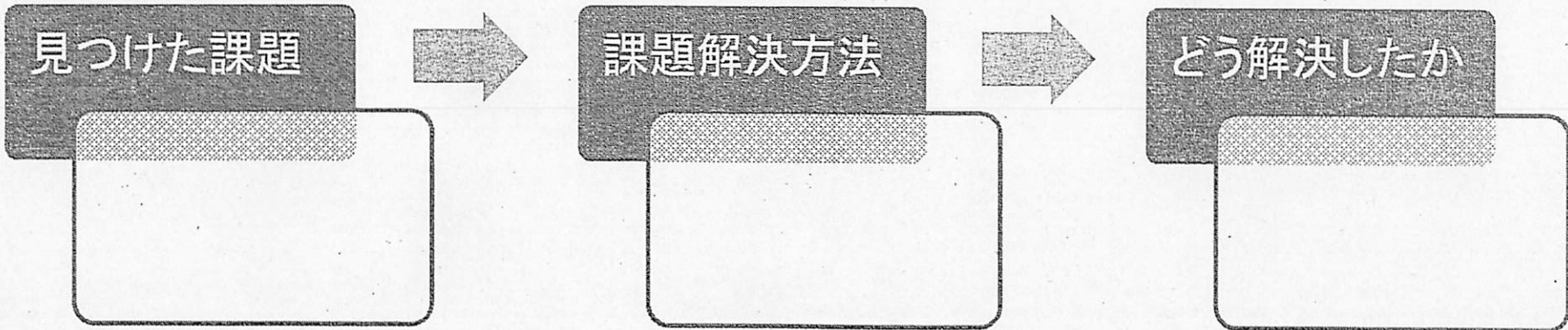
4段階 評価	理解できた.....4	声かけと気づきの重要性	
	少し理解できた.....3		
	あまり理解できない...2	スペースの概念	
	理解できない.....1		

今日の目標：バックドアブレイクを通して、チームと個人の課題を具体的に指摘する

○グループワークの振り返り



○課題解決ポイント



本日のMVP	
ズバリ理由は	

TQ	今日手に入れた戦術で相手から攻めてこられたら、どーする??